

	英吉利	佛蘭西	獨逸	並夫利加	日本
一九三〇年	六五八	四二八三五	一〇〇	三、八四三	一〇〇
一九三一年	四五三	三〇、四三六	七二	三、四二四	一〇〇
一九三二年	四一六	一九七、五	四六	一、六一一	一〇〇
一九三三年	四一七	六三、一八四三三	四三	一、六一一	一〇〇

右表に依ると日本を除く以外、各國の輸出額は四年間に非常な減退をして居る事が明白である。

### 世界の失業

世界失業界の不況は依然として其の度を尋ねて居る。故つて各國失業者も相若なる数量に達して居ることは云ふまでもない、外國の千二百萬、獨逸の六百、英國の三百萬、伊大利の二百二十萬、日本の五十萬の各失業數を以て、今日如何に失業問題が重要視せられねばならぬか理解する、失業界の民主政への逃避化、國內インフレを通じて比較的後進を示す如何に失業問題が減少し、特に獨逸に於ける十千ス、失業對策は注目に値する。

即ち悉に依る現在の失業と一年前のそれとを比較して見ると、  
 白耳義 カナダ、ギリ、ダンチツヒ、丁抹、エストニア、芬蘭、獨逸、波蘭、自由國、伊大利、日本、和蘭、ポルトガル、羅馬尼、英帝國、合衆國等に於て失業數は減少して居る。

今日、獨逸、英國を他の各國は失業防止と救済の爲に、失業保險、民間臨時事業等と起し安和策に狂奔し、あるも、巨大な失業軍は一つの社會的壓力となつて各國政治不安の一因を成して居る。  
 失業者及就職者の絶對數

國名	調査期(1)	失業者數	調査期(2)	失業者數
英帝國(675)	十月	二九二五、〇六五	十二月	二、八四九、〇二五
獨逸(3)	十月	五、〇三七五、〇	十二月	五、三五五、四二八
佛蘭西	十月	二、七五、八四〇	十二月	三、二九七、〇七
並夫利加	十月	三、八四九、二二二	十二月	三、七二四、一〇七
日本	十月	二、九二五、〇六五	十二月	二、三〇八、七七九